

科学技術政策と国立大学

於 山形大学 06-3-6

総合科学技術会議議員
東北大学名誉教授
阿部博之



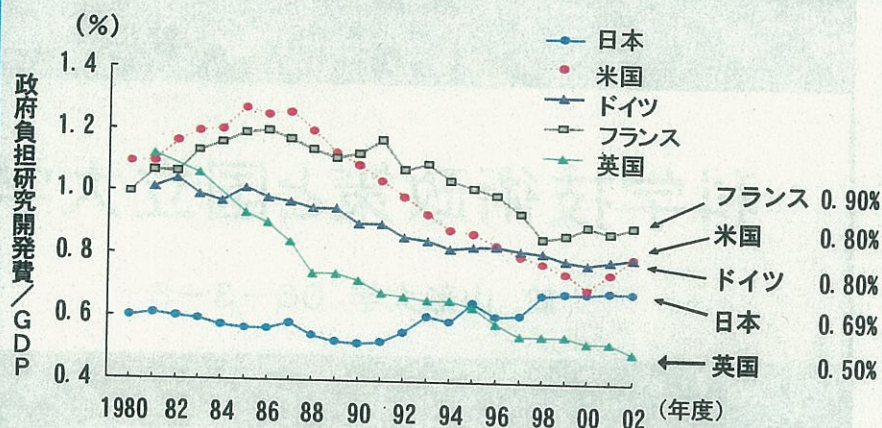
1. はじめに

- (1) 科学技術基本法(95)
- (2) 第1期科学技術基本計画(96-00) 17兆円
- (3) 総合科学技術会議の発足(01~)
- (4) 第2期科学技術基本計画(01-05) 24兆円

付)

- 大学貧乏物語
- 不況下の科学技術政策
- 人文・社会科学の取り扱い





出典：科学技術政策研究所「科学技術指標（平成16年版）」（NISTEP REPORT No.73）2004年4月より作成

（注1）米国を除いて、地方分の予算を含む。

（注2）人件費や施設費、企業の研究費も含めた全体の研究開発費を指す。日本においては、総務省「科学技術研究調査報告」における研究費を指し、人件費や施設費、企業の研究費も含めた全体の研究費である。科学技術関係経費の用途別分類における研究費の定義とは異なる。

Fig.1 主要国における政府負担研究開発費の対GDP比

2

2. 第3期基本計画に向けた投資の規模

■ 5カ年間の政府研究開発投資の総額の規模は、約25兆円とする。（注：計画期間中に対GDP比率1%、名目GDPの平均成長率が3.1%となることを前提としたもの）

■ 毎年度の予算編成に当たっては、厳しさを増している財政事情を踏まえ、財政構造改革に十分配慮した上で必要な経費を確保する。

■ 計画の実施に当たっては、成果目標の設定、評価の仕組みの確立、研究費配分の無駄の排除などの諸改革を徹底的に実行し、投資効果を最大限高める。

（総合科学技術会議資料（05-12-27）） 3

今後の予定

- ◆ 総合科学技術会議の答申を受けて、政府において第3期科学技術基本計画を年度内に閣議決定。
- ◆ 成果目標、選択と集中の投資対象については、総合科学技術会議が18年 3月末までに決定。
(分野別推進戦略)

(総合科学技術会議資料(05-12-27)) 4

3. 科学技術関係予算をめぐって

- 深刻な財政難
科学技術分野へも削減の要求
- 一部の研究費にだぶつきがあるとの指摘：
本当か？
- ミスコンダクトと不正使用の問題
- 運営費交付金と競争的研究資金

5

3.1 科学技術関係予算要求

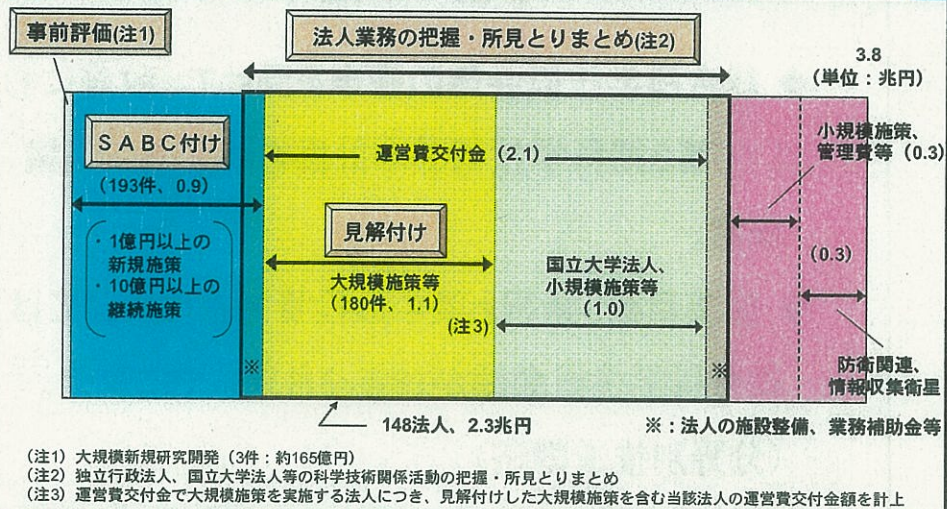


Fig.2 平成18年度科学技術関係予算の取り組みのポイント

(総合科学技術会議 (05-10-18) 資料) 6

4. 第3期基本計画の基本姿勢

- ① 社会・国民に支持され、成果を還元する
科学技術
- ② 人材育成と競争的環境の重視
～モノから人へ、機関における個人の重視
- 独自の優れた科学技術の構築
→未来を切り拓く途
- 科学技術創造立国
→人類社会での名誉ある地位を

5. 明治維新(1868年)から今日まで

近代化－産業社会－科学技術

(1) 明治期の奇跡といわれた発展

- a. 江戸期につくり上げられた、文化的・経済的水準
(和時計、和算など)

背 景

- 学力(読み書き、そろばん)
- 学問の奨励
- 精神文化の成熟(行動規範(武士道など))

8

(1) 明治期の奇跡といわれた発展(つづき)

- b. 義務教育の普及
- c. 高等教育(帝国大学、旧制高校、旧制専門学校)の推進(明治、大正)
理学系、工学系学部の創設
- d. 和魂洋才と“知”への憧憬

9

(2) 超国家主義への傾斜と第2次大戦

特色： 画一的、おごり、海外への説得力欠如
ブレーキが効かない

○内向きの利害と論理

10

(3) 敗戦(1945年)から経済大国への道

- a. 高等教育の大幅拡充
- b. 戦前に教育を受けた先輩とそれらに
直接指導を受けた戦後世代の努力
- c. 日本型の産業構造と画一化の浸透

11

(4) 90年代からの行き詰り

- a. 冷戦体制からの脱却ができていない
- b. 産業構造の転換ができていない
- c. “知”の軽視
- d. 新しい日本型エートスの構築ができていない
(エートス: 民族や社会集団に行きわたっている道徳的な慣習と雰囲気(広辞苑))
- e. 日本型の産業構造と「地域性」の低下

12

6. 科学技術政策の視点の例

- (1) 経済力ないし産業競争力
- (2) (広義の)安全保障
- (3) 少子高齢化
- (4) 海外とくにアジア諸国との連携
- (5) 市民社会への貢献
市民の選択とアカデミーないし
科学者コミュニティの役割

13

7. 大学をめぐる諸課題(その1)

○ 大学等の改革のさらなる推進

- 博士課程在学者への経済的支援の拡充
- 博士号取得者の活躍促進
- 地域に開かれた大学
- 私立大学の研究機能の強化
- 施設・設備の整備(国公立大学)

○ 制度・運用上の隘路の解消

14

7. 大学をめぐる諸課題(その2)

(1) 基礎研究と分野別推進戦略

(重点推進4分野、推進4分野)

(2) 運営費交付金について

- a. 競争的研究資金との関係
- b. 教育の重視

15

7. 大学をめぐる諸課題(その3)

(3) 国立大学の役割と国立大学法人制度

- a. 高等教育の水準の保持と向上
 - ・ 学生定員のあり方と少人数教育
- b. 社会貢献
- c. 内向き指向からの脱却と国際的水準
- d. 教職員の身分と倫理

16

7. 大学をめぐる諸課題(その4)

- (4) いわゆる市場原理と長期的視野に立つ人事のあり方
- (5) エフォートと教員の雑用
- (6) 優れた外国人を含むexceptionalな研究者(教員)の登用
- (7) 数的競争(論文数、特許数など)の問題点

17

8. 地域の活性化にむけて

(1) 画一的価値観からの脱却

— 多様化とリスク分散

(2) 知の拠点の多様化

— 学問の奨励と精神文化の醸成

(3) 地方公共団体の役割

— 大学の知を最大限に利活用する

(4) 上記のための構造改革と支援

18

9. 人材の育成と確保

(1) 啓発(ないし触発)と雰囲気

— 幼児から社会人まで

(2) 初中教育と批判精神、自律(立)精神

— “甘え”からの脱却

(3) 文明観、歴史観と人文・社会科学への期待

(4) 大学に優れた研究教育環境(雰囲気)をつくる

19